

“子どもの感情を育み、心を豊かにすることをお手伝いできる玩具”を、
エポック社は新たなジャンル「情操玩具」と定義しました。
そしてエポック社の「シルバニアファミリー」が、情操玩具の役割を果たす可能性について、
東北大学の川島教授の学術指導のもと、調査を実施いたしました。

「シルバニアファミリー」は、 子どもが人の関係性を学べる「情操玩具」の 役割を果たしていることが示唆されました。

幼少期に「シルバニアファミリー」で遊んでいた人は……

- ① 豊かな情操をもたらす「パーソナリティ」が育つ。 (→2 頁)
- ② 大人になったときの「幸福度」が高い。 (→4 頁)



Sylvanian Families®

株式会社エポック社〔本社：東京都台東区駒形 2-2-2／社長：前田道裕〕は、幼少期に「シルバニアファミリー」で遊んだ経験が、情操面に及ぼす影響を調べるために、東北大学加齢医学研究所の川島隆太教授の学術指導のもと、20 代前半の女性 400 人を対象とした調査を行いました。この「シルバニアファミリー」は、「自然、家族、愛」をテーマとした「シルバニア村の暮らし」を、人形やハウスなどを使って、子どもたちが自分でつくりあげていく玩具です。

本調査では、幼少期以降の情操形成の指標として、現在の性格特性、主観的な幸福度などを調べました。また調査項目の一部は、シルバニアファミリーの人気の高い英国の女性 400 人にも調査いたしました。

本資料では、この調査結果につきまして、東北大学の川島教授の考察とともにご紹介します。

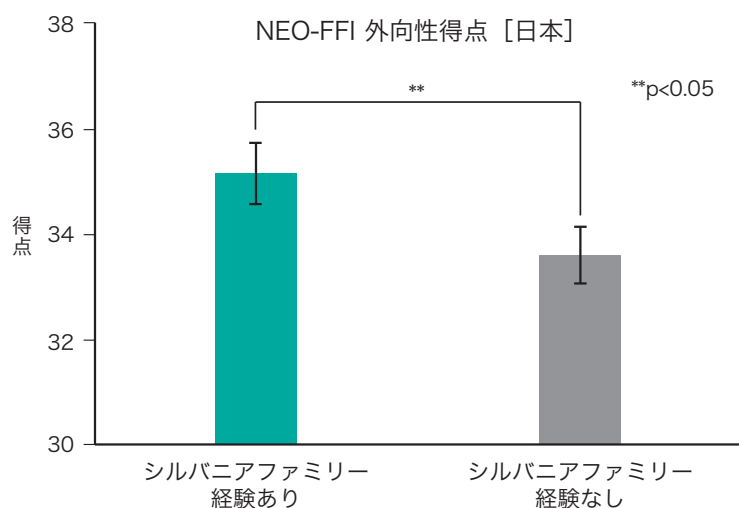
結果① 豊かな情操をもたらす「パーソナリティ」が育つ

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、豊かな情操をもたらす情緒性とコミュニケーション能力にかかわる性格特性の得点が、有意に高いことがわかりました。

パーソナリティを構成する5つの性格特性を測定する尺度として、世界的に知られている「NEO-FFI (NEO Five Factor Inventory)」*¹ による調査を行った結果、情緒性とコミュニケーション能力に深くかかわる性格特性とされる「外向性 (Extraversion)」と「誠実性 (Conscientiousness)」の得点が、シルバニアファミリーで遊んでいた群は、有意に高いことがわかりました。

この結果がもたらされた一因として、幼少期にシルバニアファミリーを用いたごっこ遊びにより、人と人との関係をロールプレイングとして経験し、その関係を学習していることが考えられます。さらにシルバニアファミリーは、あたたかいふれあいのストーリーをベースとしているため、他者と接することの楽しさ、またそのために秩序を守る大切さなどを学び、「外向性」と「誠実性」に影響を与えたことが示唆されます。

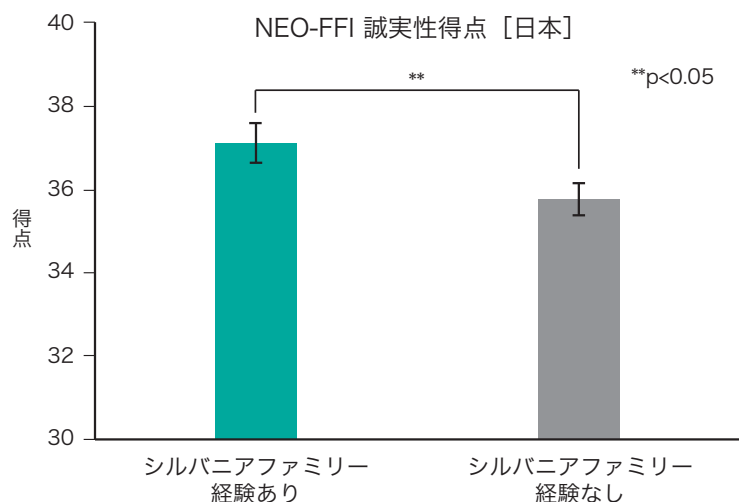
社会的なつながりを楽しむ「外向性」が有意に高い。



幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、「外向性 (Extraversion)」の得点が、有意に高いという結果が得られました。

「外向性」が高い人は、社交性が高く、気質が快活な傾向にあるとされています。また「外向性」は、豊かな情操形成と強い正の相関関係にあると考えられています。

秩序や良心を大切にする「誠実性」が有意に高い。



幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、「誠実性 (Conscientiousness)」の得点が、有意に高いという結果が得られました。

「誠実性」が高い人は、秩序や良心を大切にし、目的の達成追求や自己鍛錬を怠らないとされています。

また「誠実性」は、豊かな情操形成と強い正の相関関係にあると考えられています。

COLUMN

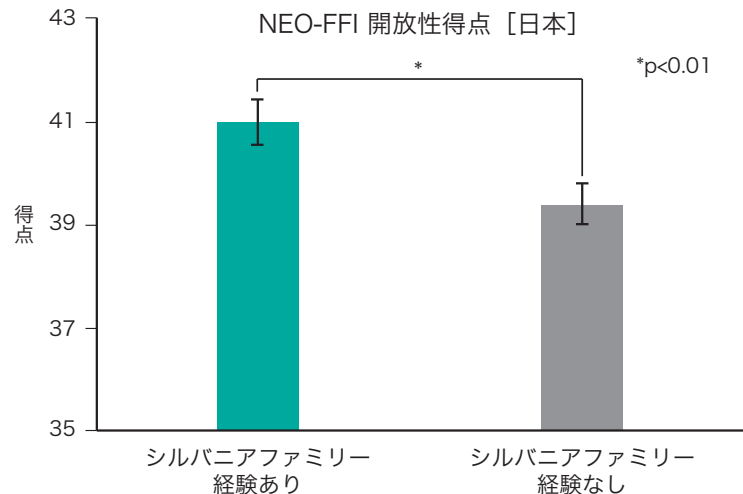
幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた人は、創造性にかかわる性格特性の得点も有意に高い。

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、創造性と強く関連する性格特性の得点も有意に高いことがわかりました。

「NEO-FFI」*1による調査を行った結果、空想や審美性、知的好奇心などに関連し、豊かな情操形成と正の相関関係にある「開放性(Openness)」の得点が、シルバニアファミリーで遊んでいた群は、有意に高いという結果が得られました。

この結果の背景には、幼少期にシルバニアファミリーを用いたごっこ遊びにより、想像力が豊かになったことが考えられます。

そしてシルバニアファミリーは遊びの自由度が高いことが、積極的な能動性とイマジネーションを広げる力を引き出し、豊かな内面世界の構築に影響したことが示唆されます。



<Topics：日本と英国の結果比較>

シルバニアファミリーで遊ぶことのメリットは、「想像力が豊かになる」こと。

シルバニアファミリーで遊ぶことのメリットについて、幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本人と英国人に質問した結果、日英ともに「想像力が豊かになる」がトップとなりました。

想像する楽しさが、シルバニアファミリーの大きな魅力のひとつとなっていることがうかがえます。

日本		英国	
1. 想像力が豊かになる	65.5%	1. 想像力が豊かになる	82.9%
2. やさしさや思いやりが育まれる	49.5%	2. 創造力がつく	71.4%
3. 創造力がつく	48.0%	3. 落ち着きが出る	59.0%
4. インテリアへの興味わく	45.0%	4. 家族愛が育成される	47.6%
5. 情緒が豊かになる	44.5%	5. 情緒が豊かになる	47.6%

*1 NEO-FFI (NEO Five Factor Inventory)

Costa, P.T., Jr., & McCrae, R. R. 1992 Revised NEO Personality Inventory (NEO-PI-R) and NEO Five Factor Inventory: Professional manual. Odessa, FL: Psychological Assessment Resources.
下仲順子, 中里克治, 権藤恭之, 高山緑 1999 NEO-PI-R, NEO-FFI 共通マニュアル 東京心理

パーソナリティを構成する下記5つの性格特性を、それぞれ測定する尺度。

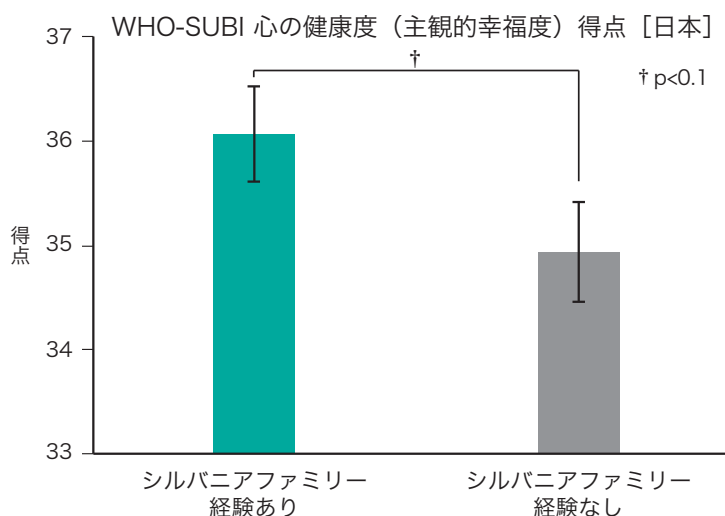
- ・神経症傾向 (Neuroticism) : 不安、敵意、抑うつ、自意識、衝動性、傷つきやすさ
- ・外向性 (Extraversion) : 温かさ、群居性、断行性、活動性、刺激希求性、よい感情
- ・開放性 (Openness) : 空想、審美性、感情、行為、アイディア、価値
- ・調和性 (Agreeableness) : 信頼、実直さ、利他性、応諾、慎み深さ、優しさ
- ・誠実性 (Conscientiousness) : コンピテンス、秩序、良心性、達成追求、自己鍛錬、慎重さ

結果② 大人になったときの「幸福度」が高い

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、大人になった現在の生活に対する幸福度が、高い傾向にあることがわかりました。

心の疲労度に加えて、心の健康度（主観的幸福度）を測定する質問紙として、WHO（世界保健機関）が開発した「WHO-SUBI The Subjective Well-being Inventory」*2 による調査を行った結果、シルバニアファミリーで遊んでいた群は、心の健康度（主観的幸福度）の得点が高い傾向にあることがわかりました。この結果から、シルバニアファミリーで遊んでいた人は、大人になった現在、自分の生活を幸福と感じている度合いが高いと考えられます。

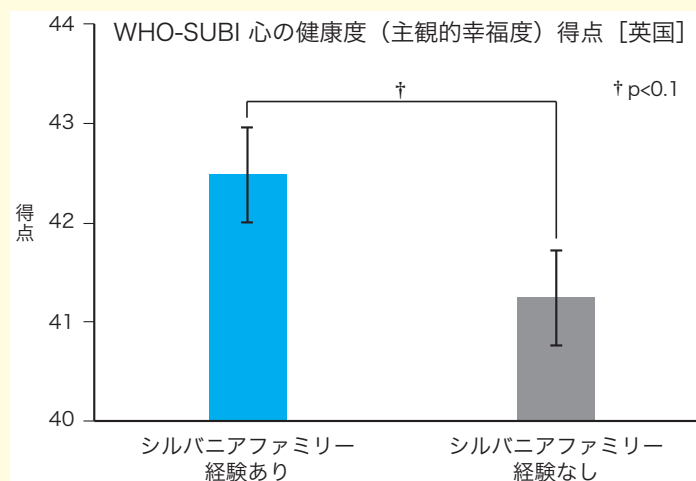
この結果には、幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいたことで、豊かな情操が育まれたことが関連すると考えられます。このことが幼少期のみならず、それ以降の生活にもよい影響を与え、結果として大人になった現在においても、生活に対する幸福度を高めたことが示唆されます。



<Topics：日本と英国の結果比較>

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた英国の女性も、大人になったときの「幸福度」が高い。

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた英国の女性も、大人になった現在、幸福度が高い傾向にあることがわかりました。「WHO-SUBI」*3 による調査を英国で行った結果、シルバニアファミリーで遊んでいた群は、心の健康度（主観的幸福度）が高い傾向にあるという結果が得られました。この結果より、幼少期にシルバニアファミリーで遊ぶ経験には、親が望む“将来の子どもの幸せ”に、文化の差を超えて、貢献できる可能性があることが示唆されました。



*2 WHO-SUBI The Subjective Well-being Inventory 心の健康度（主観的幸福度）

Negpal R., Sell H. 1992 Assessment of subjective well-being. The subjective well-being inventory (SUBI). New Delhi: Regional Office for South-East Asia, World Health Organization.
藤南佳世, 園田明人, 大野裕 1996 主観的健康感尺度 (SUBI) 日本語版の作成と、信頼性、妥当性の検討。健康心理学研究 8(2), 12-19.

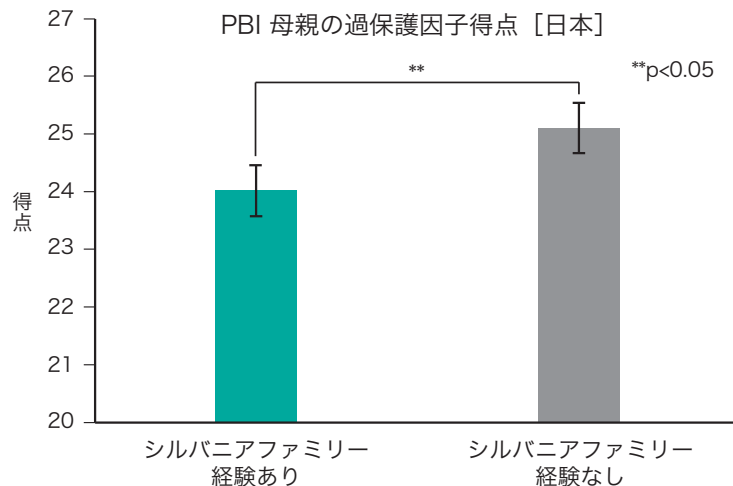
心の健康の度合い（自分が幸福と感じている度合い）を、下記7項目の陽性感情の度合いから評価。

- | | | |
|----------------|---------|---------|
| ・人生に対する前向きな気持ち | ・達成感 | ・自信 |
| ・至福感 | ・近親者の支え | ・社会的な支え |
| | | ・家族との関係 |

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた人が、豊かな情操を育んだ背景には「良好な親子関係」があった。

幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた日本の女性は、子どもの頃に母親から過保護な経験を受けたという記憶が有意に少ないことがわかりました。このことから豊かな情操を育んでいた子どもの頃、母親との関係が良好であったと考えられます。

子どもの頃に親から受けた養護因子(愛情・愛着の程度)と過保護因子(過保護・過干渉の程度)から、親の養育態度を評価する「PBI(Parental Bonding Instrument)」*3による調査を行った結果、シルバニアファミリーで遊んでいた群は、母親から過剰な接触や幼児扱いなど過保護因子を受けた記憶が、有意に低いことがわかりました。このため、子どもの頃に母親と良好な関係にあったと考えられます。



この結果から、シルバニアファミリーで遊んでいた群に豊かな情操が育まれた一因として、情操が発達する幼少期に良好な親子関係が築かれていたことが、強く影響したと考えることができます。

*3 PBI (Parental Bonding Instrument)

Parker, G. 1979 Parental characteristics in relation to depressive disorders. British Journal of Psychiatry, 134, 138-147.

成田智拓・佐藤哲哉樹・西岡和郎・坂戸薫・上原徹・伊藤哲彦・笠原嘉 1998 Parental Bonding Instrument (PBI) によって測定された両親の養育行動の因子構造 季刊精神科診断学, 9, 263-277.

子どもの頃の両親の養育態度を、下記の養護因子と過保護因子から評価する自覚的評価スケール。

- ・養護因子 : 愛着、暖かさ、共感、親密さなど、両親の愛情・愛着の程度
- ・過保護因子 : 操縦、侵入、過剰接触、幼児扱い、自立的行動の妨害など、両親の過保護・過干渉の程度

<Topics : 日本と英国の結果比較>

シルバニアファミリーにみる日本と英国の親子関係

- シルバニアファミリーを購入したきっかけは、
日本は「親が買ってきた (42.0%)」、「親にお願いした (31.5%)」に二分されることに対し、
英国は「親が買ってきた (63.8%)」が圧倒的に多いという結果が得られました。
- 幼少期にシルバニアファミリーで遊んでいた人で、将来自分の子どもに購入したいと答えた人は、
日本 (77.5%)、英国 (83.8%) とともに共通して多いことがわかりました。
- シルバニアファミリーを将来子どもに購入したいと思っている理由 (自由回答) は、
日本では「楽しかった・楽しい」「親も一緒に遊べる」が目立ちましたが、
英国では「同じおもちゃを共有したい」が多く、購入意向が高い層では約半数に上りました。

川島教授（学術指導）による考察



かわしま りゅうた

川島 隆太（東北大学加齢医学研究所 教授）

東北大学医学部卒業同大学院医学研究科修了。スウェーデン王国カロリンスカ研究所客員研究員、東北大学加齢医学研究所助手、同講師、東北大学未来科学技術共同研究センター教授を経て、2006年より現職。

脳のどの部分にどのような機能があるかを調べる「ブレインイメージング研究」の第一人者。

認知症患者の脳機能回復、高齢者の認知症予防または脳機能改善、幼少児の脳機能発達促進などを目的に、産学連携による研究などにも意欲的に取り組んでいる。

学術指導を行うにあたっての作業仮説

今回の研究では、幼少期に「シルバニアファミリー」で遊んだ経験が、情操面の発達に良い影響を与えることを証明することが目的であった。背景となる研究として、我々は、文部科学省「平成20年度『子どもの生活リズム向上のための調査研究』乳幼児期の調査研究」として、親子の遊びが親子の愛着形成を強めることを証明し、子どもの健全な心の成長や認知発達に極めて大きな意味を持つと結論していた。今回の研究も、「人形を使ったごっこ遊び」は、親や家族との良質かつ自然なコミュニケーションの介在役となり、結果として子どもの健全な心の成長に良い影響を与え得ると考えた。今回、我々は、子どもの情操発達を評価する上で、ランダム化比較対照調査^{*4}による短期間の介入の影響を調べるよりも、後ろ向きコホート調査^{*5}により、大人になった時の性質や性格にどのような影響があるかを調べる方がより本質的であると考えた。

人形を使ったごっこ遊びと脳活動の関係

今回の調査で、幼少期に「シルバニアファミリー」で遊んだ経験を持つ女性は、創造性に富む、外向性や誠実性が高い、幸福度が高いなどの傾向があることが明らかになった。その理由を脳科学の観点から考察する。

こうした人形を使ったごっこ遊びでは、まず場面やストーリーを子どもが創造する。より楽しく遊ぶためには、時間や空間を自分の精神世界の中に作り出し操作する必要がある。それらの操作は内的な（幼児ではしばしば自発言語も伴うので外的な）言語を駆使して行われる。こうした精神活動は背外側前頭前野を主に使って行われる。さらに、ストーリーの中では様々な登場人物が現れ、子どもたちはストーリーを頭に思い浮かべながら、その人物の身になりその人だったらどのように考えどのように行動するだろうか、ということを考える。このような他者の気持ちを慮り行動する能力は、背内側前頭前野に宿っている。心理学の世界では「心の理論」とも呼ばれ、良好な人間関係や円滑な社会の形成に欠かせないものと考えられている。

人形を使ったごっこ遊びは、自身の精神世界を広げ、かつ社会性を形成する力を持った「脳トレ」であると考えることができる。

さいごに

今回の調査は大規模調査であり、日英比較など、学術的に有意義なデータが包含されているが、これらの考察は後に学術領域で発表する。また、後ろ向きコホート調査^{*5}の弱点として、元々、そのような性質をしていた人が、人形を使ったごっこ遊びを好む傾向にあった可能性を否定はできない。今回の結果を受けて、ランダム化比較対照調査^{*4}による追跡調査を考えるべきであろう。

^{*4} ランダム化比較対照調査：被験者群をランダムに「介入を行う群」と「比較対照群」に分け、介入を行った影響を調べる。

^{*5} 後ろ向きコホート調査：過去にある特定の経験をした集団を、性別や年齢分布が等しい一般集団と比較し、その後の経験の影響を調べる。
解析の向きの時間軸が、過去から現在に向かって調査する方法。

エポック社が考える情操玩具としてのシルバニアファミリーの可能性

今回の調査を実施した背景

今回の調査の対象とした「シルバニアファミリー」は、1985年の発売開始以降、25年以上にわたるエポック社のロングセラー商品で、現在世界40ヶ国以上の国々で好評をいただいております。時代背景の違いや地域・文化の差を超えて、子どもたちに好まれるシルバニアファミリーには、商品の魅力に加えて、子どもたちが成長するために必要な糧があるとエポック社は考えていました。そしてその糧は、知育玩具とは異なり、シルバニアファミリーで遊ぶことにより、想像力や思いやりが育まれることが期待できることから、「情操面」によい影響を与えることにあると考えました。そこでエポック社では、シルバニアファミリーの発売25周年を機に、“子どもの感情を育み、心を豊かにすることをお手伝いできる玩具”を「情操玩具」と定義し、シルバニアファミリーがその役割を果たす可能性について、東北大学の川島教授の学術指導のもと、調査を実施いたしました。

日本と英国の調査結果が持つ意味

今回行った調査から、シルバニアファミリーで遊んだ経験により、子どもが人の関係性を学び、情操面によい影響を与えていることがわかりました。この結果には、シルバニアファミリーで遊ぶなかで、母親や友人など自分以外の役を演じたことを通じて、相手の気持ちを理解したことが関連すると考えられます。そしてこのことには、さまざまな人たちを演じることができるシルバニアファミリー特有の世界観が、大きく影響していることが示唆されます。

また英国の調査結果では、日本と同様に、大人になってからの幸福度が高いという結果が得られました。この結果からシルバニアファミリーの経験が、地域や文化の差を超えて、情操面によい影響を及ぼすことが示唆されました。このことには、シルバニアファミリーの発売当初から、その時代の子どもたちが遊びやすいように変更を重ねながらも、基本となるテーマ「自然・家族・愛」と、「シルバニア村」を舞台にした世界観を貫いてきたことが関係するとエポック社は考えています。シルバニアファミリーのテーマと世界観には、時代背景の違いや地域・文化の差を超えた「普遍性」が存在し、それが子どもたちの情操面によい影響を与える前提になっていると推測しています。

現代の子どもたちに向けた可能性

近年、子どもたちを取り巻く状況は大きく変わっています。そのなかでエポック社が変化を強く感じていることが、子どもたちの遊びです。自分で遊びをつくりだすことができなくなってきた、自分のやりたい役しか演じないため「ごっこ遊び」が成立しないという話を聞く機会が増えています。そしてこれらのことが、子どもたちの社会性や創造性などに関連することが指摘されています。ごっこ遊びはもちろん、着せ替え、インテリアづくりなど、子どもたちの発想でいろいろな遊びを楽しむことができるシルバニアファミリーは、遊びの自由度が高く、子どもたちが遊びをつくりだすことを支援できる可能性があります。またシルバニアファミリーには、個性豊かな家族のほか、学校やお店などさまざまな生活シーンを用意していることから、子どもたちが自分以外の役を自然に演じられるようになったという意見をたびたび伺います。

子どもたちを巡る状況がこれからも変わっていくと予想されるなか、エポック社はシルバニアファミリーが持つ「情操玩具」としての役割が、今後ますます重要になっていくと考えています。

—調査概要—

・調査地域	日本（全国）と英国（全国）	
・対象者	共通条件：20～25 歳 未婚・社会人女性（同居人数は問わず）	
・割付	シルバニアファミリーで遊んでいた群： 幼少期（具体的な期間は不問）に、シルバニアファミリーの人形とハウスを、 実家で保有していた人（“お下がり”を含む） シルバニアファミリーで遊んでいない群： 幼少期にシルバニアファミリーで遊ばなかった人 （シルバニアファミリー認知有無は不問）	
・サンプル	各層 200 人（日本と英国各 400 人）／日英合計；800 人	
・調査手法	インターネット調査	
・調査日時	日本：2010 年 9 月 23 日～9 月 26 日 英国：2010 年 10 月 23 日～11 月 4 日	
・調査項目	NEO-FFI（NEO Five Factor Inventory） WHO-SUBI The Subjective Well-being Inventory PBI（Parental Bonding Instrument） 属性調査	* 日本のみ実施 * 日本と英国で実施 * 日本のみ実施 * 日本と英国で実施

<シルバニアファミリーについて>

シルバニアファミリーは、動物をモデルにした小さな人形、ハウス、家具、着せ替えできる洋服などの小物、お店などをラインナップする玩具で、3 歳～8 歳の女の子を主な対象としています。シルバニアファミリーの特徴には、①人形の純粋なかわいらしさ、②基本単位が家族、③精巧な作りのハウスや家具、④ごっこ遊びをはじめとするさまざまな遊びができる、⑤ストーリー性と世界観により奥行きのある遊びができる、などがあげられます。シルバニアファミリーは、1985 年の発売開始以降、女の子の定番のおもちゃに定着し、現在の 10 代女性の 98%に認知されています。また遊びの普遍性が高いことから、英国をはじめとする欧州や北米などの子どもたちにも高い人気を得ています。



本資料に関する問い合わせ先

株式会社エポック社

マーケティング部 広報宣伝室 担当：前

TEL：03-3843-8814 FAX：03-3843-5106 Mail：mae-m@epoch.jp